

# 高知県感染症発生動向調査(週報)

2011年第9週[2月28日～3月6日]

高知県衛生研究所 高知県感染症情報センター  
TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869  
http://www.kenkou.med.pref.kochi.lg.jp/eiken/  
E-mail:kansen@ken4.pref.kochi.jp

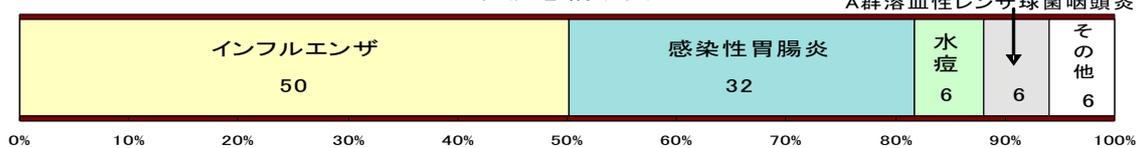
## 県内情報

### ○ 患者情報総評

#### 注意報発令疾患：なし

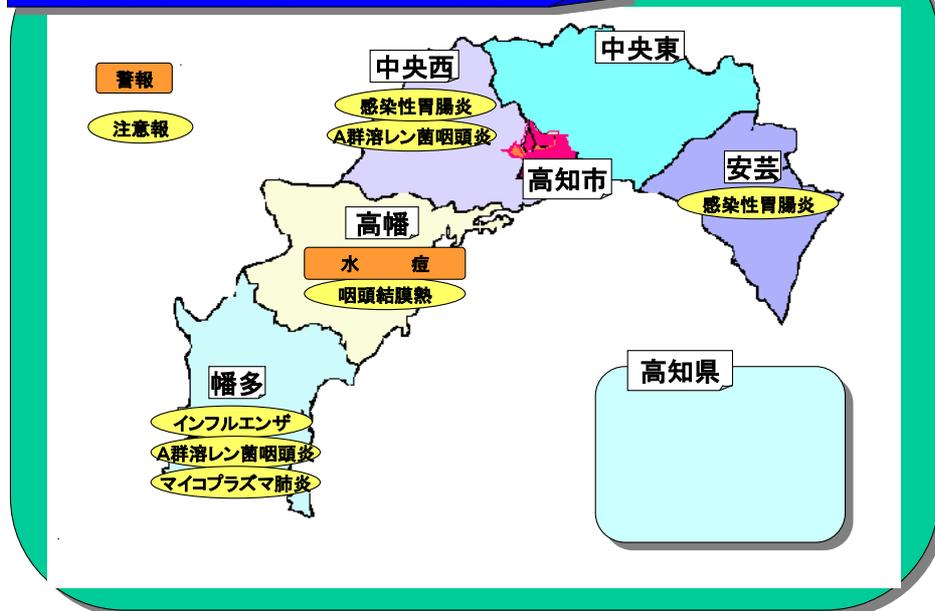
- 週の前半は暖かい日が続いたが、後半は気温が上がらず厳しい寒さとなった。
- インフルエンザ(幡多：警報→注意報)は全ての地域で減少したため、総数はさらに減少し注意報値を下回った。
- 感染性胃腸炎(安芸：注意報→注意報，中央西：注意報)は幡多を除く地域で増加し、前々週並みの報告となった。安芸と中央西で注意報値を超している。
- 水痘(高幡：警報→警報)は安芸を除く地域で増加または横ばいとなり、総数は前週の約1.6倍増となった。高幡では再び警報値を大きく上回る報告となっている。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(幡多：注意報→注意報，中央西：注意報)は総数はやや減少したが、幡多と中央西で注意報値を超している。

上位疾患構成図



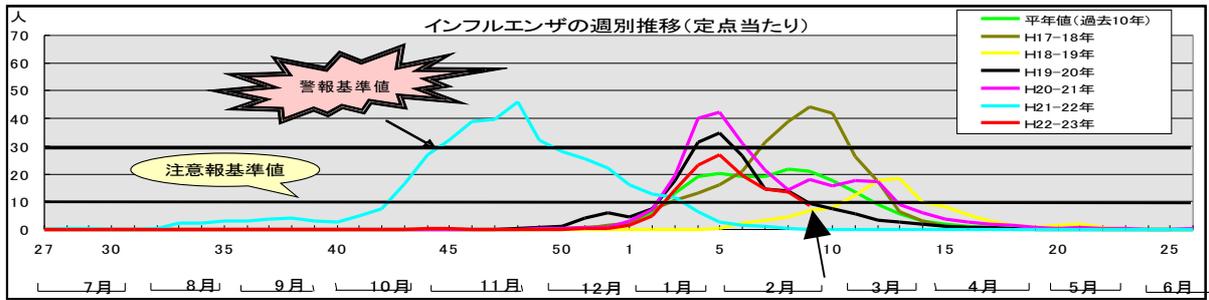
## 地域別感染症注意報・警報発生状況

第9報 (2011年2月28日～2011年3月6日)



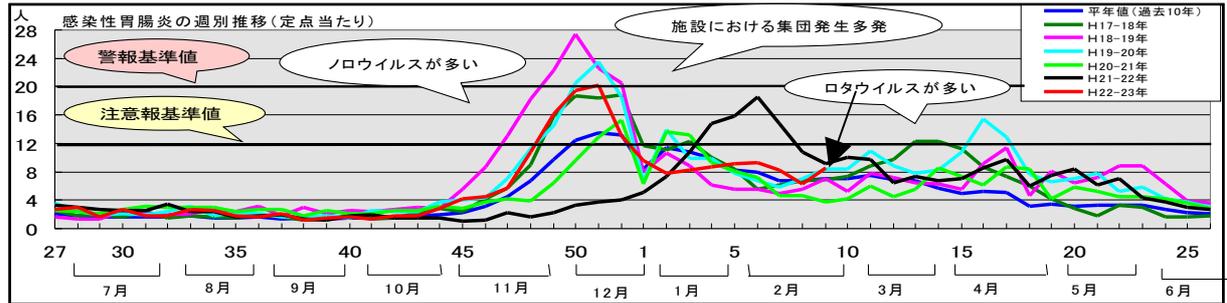
### インフルエンザ：今週 8.42 (注意報値：10.00 警報値：30.00)

全ての地域で減少し、総数はさらに減少し注意報値を下回った。また、地域毎にみても幡多を除く地域で注意報値を下回った。年齢別にみると、5～9歳が41.0%，10～14歳が23.7%，1～4歳が14.1%の順で報告が多い。今週はAH1pdm 6件，B 2件が検出されている。また、施設別発生状況では、6小学校，1中学校で患者数75名となり、休校，学級・学年閉鎖の措置が取られた。総数は減少を続けているが、もうしばらくは注意が必要である。



**感染性胃腸炎：今週 8.47 （注意報値：10.00 警報値：20.00）**

幡多を除く地域で増加し、総数は再び増加に転じた。前週、安芸地域ではノロウイルスによる集団食中毒が発生しており、今後も注意が必要である。



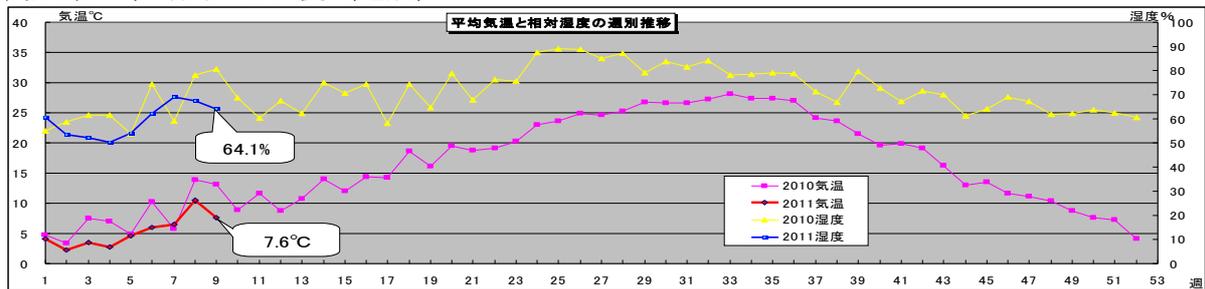
○ 検査情報

週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス, 細菌の検出状況
9	インフルエンザ	3歳 女	高知市	Influenza virus B
9	インフルエンザ	7歳 女	高知市	Influenza virus AH1pdm
9	インフルエンザ	8ヵ月 男	高知市	Influenza virus AH1pdm
9	インフルエンザ	68歳 女	高幡	Influenza virus B
9	インフルエンザ	11歳 女	高幡	Influenza virus AH1pdm
9	インフルエンザ	4歳 女	高幡	Influenza virus AH1pdm
9	インフルエンザ	1歳 女	高幡	Influenza virus AH1pdm
9	インフルエンザ	11歳 女	高幡	Influenza virus AH1pdm
9	マイコプラズマ肺炎	12歳 男	高幡	Maycoplasma pneumoniae

○ 全数報告の感染症情報

2類感染症：結核 1例 (74歳男) 《須崎》 (今年25例)

○ 高知県の平均気温と湿度 (週別)



○ 定点からの地域ホット情報

幡多：

《幡多けんみん病院小児科》：インフルエンザの46例中10例はA型陽性, 36例はB型陽性  
アデノウイルス陽性 2例 (3歳女, 4歳男)

《さたけ小児科》：マイコプラズマ感染症 1例 (6歳男) ヘルペス性歯肉口内炎 1例 (1歳男)  
インフルエンザの56例中16例はA型陽性, 39例はB型陽性

《大井田病院小児科》：インフルエンザの32例中10例はA型陽性, 22例はB型陽性

《こいけクリニック》：インフルエンザの54例中19例はA型陽性, 35例はB型陽性

《幡多けんみん病院内科》：インフルエンザの5例中3例はA型陽性, 2例はB型陽性

高幡：

《もりはた小児科》：インフルエンザの6例は全てA型陽性, 予防接種歴なし 水痘の流行が続く

《大西病院小児科》：インフルエンザの2例中1例はB型陽性  
《須崎くろしお病院内科》：インフルエンザの5例は全てA型陽性  
《くぼかわ病院内科》：インフルエンザの1例はA型陽性

#### 中央西：

《石黒小児科》：インフルエンザの6例中2例はA型陽性，4例（うち2例は予防接種歴あり）はB型陽性  
ヘルペス性歯肉口内炎 1例（8歳女） 帯状疱疹 1例（25歳男）  
《くぼたこどもクリニック》：インフルエンザの13例は全てB型陽性，うち1例は予防接種歴あり  
感染性胃腸炎の1例（4歳女）は土佐市，1例（4歳男）は須崎市  
《岡本内科》：インフルエンザの4例中2例はB型陽性

#### 高知市：

《細木病院小児科》：インフルエンザの12例中9例はA型陽性，3例はB型陽性  
《矢野小児科》：インフルエンザの7例中1例は予防接種歴あり  
《福井小児科内科》：インフルエンザの5例中4例はA型陽性，1例はB型陽性  
《けら小児科・アレルギー科》：インフルエンザの21例中12例はA型陽性，9例はB型陽性，うち5例は予防接種歴あり  
アデノウイルス陽性 2例（7ヵ月男，11ヵ月女）  
マイコプラズマ肺炎 2例（10歳女，11歳男）  
病原性大腸菌（0-8） 1例（4歳男）  
《ふないキッズクリニック》：インフルエンザの9例中2例はA型陽性，7例はB型陽性，うち1例は予防接種歴あり  
《依岡内科》：インフルエンザの2例中1例は予防接種歴あり  
《高知医療センター小児科》：インフルエンザの7例中3例はA型陽性，4例はB型陽性，予防接種歴ありは2例  
《細木病院内科》：インフルエンザの5例は全てA型陽性，うち3例は予防接種歴あり  
《高知赤十字病院内科》：インフルエンザの3例中2例は予防接種歴なし  
《近森病院内科》：インフルエンザの10例中4例はA型陽性，うち予防接種歴ありは2例，なしは3例  
《高知医療センター内科》：インフルエンザの1例はA型陽性，予防接種歴なし

#### 中央東：

《高知大学医学部附属病院小児科》：感染性胃腸炎の3例中2例はロタウイルス，1例はノロウイルス  
《吉本小児科皮膚科》：インフルエンザの3例は全てB型陽性  
《あけぼの小児クリニック》：インフルエンザの10例中5例はA型陽性，5例はB型陽性  
《いちほら内科小児科》：インフルエンザの8例中2例はA型陽性，6例はB型陽性  
《JA高知病院内科》：インフルエンザの5例中4例はA型陽性，1例はB型陽性  
《野市中央病院内科》：インフルエンザの4例中1例はA型陽性，3例はB型陽性

#### 安芸：

《県立安芸病院小児科》：インフルエンザの10例中3例はA型陽性，2例はB型陽性，予防接種歴なし  
《田野病院小児科》：アデノウイルス扁桃炎 2例（1歳男女） インフルエンザの1例はA型陽性  
《県立安芸病院内科》：インフルエンザの1例はA型陽性，予防接種歴なし

### 全国情報第7週（2/14～2/20）（<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>）

2類感染症：結核314例

3類感染症：細菌性赤痢3例、腸管出血性大腸菌感染症10例（有症者3例、うちHUS なし）、腸チフス1例

4類感染症：A型肝炎6例、つつが虫病2例、デング熱2例、レジオネラ症7例

5類感染症：アメーバ赤痢10例、急性脳炎1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症4例、後天性免疫不全症候群15例（AIDS 5例、無症候8例、その他2例）、ジアルジア症1例、梅毒10例、風しん1例、麻しん5例  
報告遅れ：パラチフス1例、エキノコックス症1例、オウム病1例、チクングニア熱1例、デング熱1例、急性脳炎7例、クリプトスポリジウム症1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症2例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例

#### ◆伝染性紅斑

感染症発生動向調査によると、伝染性紅斑は例年夏季に報告数が増加し、第26週前後がそのピークとなることが多い。1987年、1992年、1997年、そして2000年以降では2001年、2007年とほぼ4～6年ごとの周期で患者発生数の増加がみられている。2008～2009年の報告数は減少し、夏季の流行のピークも定かではない状態が続いていたが、その後2010年の報告数は前年よりも増加し、特に秋季以降は例年よりも高い水準となり、現在まで継続している。2011年第7週の伝染性紅斑の定点当たり報告数は0.51（報告数1,596）となり、第4週以降減少が続いていた報告数が増加に転じた。都道府県別では福岡県（1.65）、宮崎県（1.56）、石川県（1.21）、宮城県（1.12）、鳥取県（0.95）の順であり、31都府県で前週の報告数よりも増加がみられた。2011年第1～7週までの定点当たり累積報告数は4.07（累積報告数12,842）であり、2000年以降では2007年に次いで多くなっている。年齢群別割合をみると、4～5歳が32.9%と最多であり、次いで6～7歳（25.9%）、2～3歳（17.0%）、8～9歳（12.2%）の順となっており、7歳までで全報告数の75%以上を、9歳以下で90%以上を占めているのは例年と同様である。

伝染性紅斑は、多彩な臨床像を呈することからも、実際に診断されているのは感染者の中の一部である可能性があり、加えて紅斑や発疹が出現して臨床的に診断が容易になる前に周囲への感染性があることより、その感染対策は極めて困難であると言わざるを得ない。保育園、幼稚園、小学校等の小児の集団生活施設で流行が発生している際には、その流行が収束するまでの間、妊婦等が施設内に立ち入ることを制限することを考慮すべきである。今後とも伝染性紅斑の発生動向には注意が必要である。

定点名	疾病名	医療圏 安芸医療圏	中央医療圏			高幡医療圏	幡多医療圏	計	前週	全国(8週)	高知県(9週末累計) H23/1/3~H23/3/6
			中央東	高知市	中央西						
内科・小児科	インフルエンザ	12	43	114	26	14	195	404 ( 8.42)	640 ( 13.33)	77,751 ( 15.75)	6,073 ( 126.52)
小児科	咽頭結膜熱			2	1	2	1	6 ( 0.20)	5 ( 0.17)	1,240 ( 0.39)	83 ( 2.77)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		11	9	10		18	48 ( 1.60)	52 ( 1.73)	7,910 ( 2.51)	420 ( 14.00)
	感染性胃腸炎	34	62	92	36	8	22	254 ( 8.47)	190 ( 6.33)	31,175 ( 9.91)	2,278 ( 75.93)
	水痘		10	13	3	20	5	51 ( 1.70)	31 ( 1.03)	5,679 ( 1.80)	537 ( 17.90)
	手足口病			2				2 ( 0.07)	9 ( 0.30)	468 ( 0.15)	58 ( 1.93)
	伝染性紅斑			1				1 ( 0.03)	4 ( 0.13)	1,957 ( 0.62)	29 ( 0.97)
	突発性発疹	1	4	7		1	2	15 ( 0.50)	12 ( 0.40)	1,568 ( 0.50)	88 ( 2.93)
	百日咳									60 ( 0.02)	6 ( 0.20)
	ヘルパンギーナ			1		1		2 ( 0.07)	1 ( 0.03)	76 ( 0.02)	15 ( 0.50)
	流行性耳下腺炎			1			1	2 ( 0.07)	13 ( 0.43)	2,968 ( 0.94)	42 ( 1.40)
	RSウイルス感染症		1	10	1		5	17 ( 0.57)	23 ( 0.77)	1,219 ( 0.39)	524 ( 17.47)
眼科	急性出血性結膜炎									11 ( 0.02)	( 0.00)
	流行性角結膜炎									346 ( 0.51)	8 ( 2.67)
基幹	細菌性髄膜炎									9 ( 0.02)	1 ( 0.14)
	無菌性髄膜炎			1				1 ( 0.14)	2 ( 0.29)	16 ( 0.03)	6 ( 0.86)
	マイコプラズマ肺炎			1			1	2 ( 0.29)	2 ( 0.29)	199 ( 0.43)	19 ( 2.71)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)								1 ( 0.14)	9 ( 0.02)	1 ( 0.14)
計 (小児科定点当たり人数)	47 ( 20.50)	131 ( 16.48)	254 ( 19.67)	77 ( 22.20)	46 ( 19.50)	250 ( 35.18)	805 ( 21.68)				
前週 (小児科定点当たり人数)	51 ( 20.75)	143 ( 17.16)	320 ( 23.16)	89 ( 21.80)	79 ( 26.25)	303 ( 41.68)		985 ( 24.67)	132,661	10,188 ( 262.52)	

定点当たり

第9週

定点名	疾病名	医療圏 安芸医療圏	中央医療圏			高幡医療圏	幡多医療圏	計	前週	全国(8週)
			中央東	高知市	中央西					
内科・小児科	インフルエンザ	3.00	3.91	7.13	5.20	3.50	24.38	8.42	13.33	15.75
小児科	咽頭結膜熱			0.18	0.33	1.00	0.20	0.20	0.17	0.39
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.57	0.82	3.33		3.60	1.60	1.73	2.51
	感染性胃腸炎	17.00	8.86	8.36	12.00	4.00	4.40	8.47	6.33	9.91
	水痘		1.43	1.18	1.00	10.00	1.00	1.70	1.03	1.80
	手足口病			0.18				0.07	0.30	0.15
	伝染性紅斑			0.09				0.03	0.13	0.62
	突発性発疹	0.50	0.57	0.64		0.50	0.40	0.50	0.40	0.50
	百日咳									0.02
	ヘルパンギーナ			0.09		0.50		0.07	0.03	0.02
	流行性耳下腺炎			0.09			0.20	0.07	0.43	0.94
	RSウイルス感染症		0.14	0.91	0.33		1.00	0.57	0.77	0.39
眼科	急性出血性結膜炎									0.02
	流行性角結膜炎									0.51
基幹	細菌性髄膜炎									0.02
	無菌性髄膜炎			0.20				0.14	0.29	0.03
	マイコプラズマ肺炎			0.20			1.00	0.29	0.29	0.43
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)								0.14	0.02
計 (小児科定点当たり人数)	20.50	16.48	19.67	22.20	19.50	35.18	21.68			
前週 (小児科定点当たり人数)	20.75	17.16	23.16	21.80	26.25	41.68		24.67		

## 2011年週報推移(定点当たり)

